NIE実践報告

1．タイトル：日経新聞を読んでみよう

2．学校名

東京都立小笠原高等学校

3．実践者名（代表者名）

石沢　一元

4．学年

３年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代文・進学クラス・14名

6．単元（本時の学習課題）名

記事の内容を正確に読み取る

7．目標(狙い)

語句の意味を正確に把握したうえで、記事内容を理解する。

8．評価の視点

①記事の内容を的確に読み取り、見出しの語句を推測できているか。
②記事に用いられている類似語句について、その違いを明確に理解しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞記事を正確に読み取り、意見文を書く授業(2時間)のうち、1時間目。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①日本経済新聞(平成24年1月1日朝刊)「C世代駆ける」を読み、内容を正確に把握する。(1時間)
②A「もし内閣に入れるとしたら、何大臣になってどのような政策を打ち出しますか。」B「あなたの考える『グローバル化』について述べなさい。」という二つの課題のうち一つを選び、自分の考えを述べる。(1時間)

(留意点)
○予め見出しをふせんで隠し、記事内容から見出しを推測させる。
○「成長」と「安定」、「低迷」と「停滞」と「衰退」などの語句について、そのニュアンスの違いを明確に言葉で表現させる。
○意見文を書くにあたっては、新聞記事の文体を参考に、簡潔さ、1文の長さ、主述の呼応などに注意させ、文章構成を事前に考えさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

普段から新聞を読む習慣がないため、最初は読みづらそうにしていた。意見文を書く際には、簡潔な表現を意識して取り組んでいた。

12．成果と課題

生徒の日常には深く関わらない新聞を教材とすることで、生徒は新鮮な気持ちで授業に臨んでいた。また、グラフの読み取りや社会的課題に対する自分の考えを述べる機会を設けたことで、普段の国語(現代文)とは異なる切り口で授業ができたと考える。一方で、教材準備等を考えると、選択(あるいは習熟度別)型の講座での実施に限られてしまう点は否めない。今後は日頃から新聞を教材として使用し、普段の国語の授業と関連を持たせられるような活用法を心がけたい。